



# Japan Healthcare Promotion Association

## ニュースレター

2012 年 5 月 / May 2012

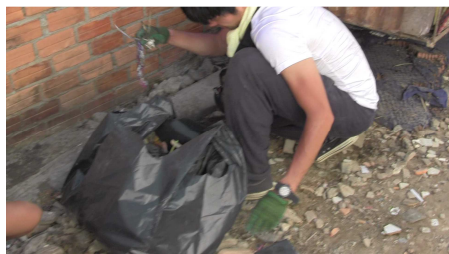
### 目次

- 1 第 2 回定期総会終了のご報告
- 1 活動報告のまとめ
- 2 東日本大震災余剰支援医薬品輸送プロジェクト
- 2 カンボジアでの通関手続き奮闘！
- 3 スラム街での公衆衛生活動
- 3 カンボジア健康診断活動報告
- 4 薬草プロジェクト発足！
- 4 24 年度の活動



いつも利用していたミタツピアップホテルのカフェでよく飲んでたアイスカフェラテ。美味しいです。

無事に 1 年  
活動できました♪



大阪薬科大学 5 回生によるスラム街のゴミ拾い活動。彼らを見て、スラム街の住民の人たちが自主的に参加してくれました。

## 第 2 回定期総会終了のご報告

さて、去る 4 月 21 日に神戸のくすのき薬局にて第 2 回定期総会を行いました。23 年度の活動報告と活動計算報告、24 年度の活動計画案と活動予算案の審議をして、無事に承認を得ましたことをここにご報告いたします。

当 NGO は特定非営利活動法人を取得していますので、事務所がある奈良県内に 23 年度の活動報告を済ませたことも併せてご報告させていただきます。

奈良県に報告を提出しに行った際に、担当の方に「活動報告、こんなにあるんですか？」と仰っていただきました。(\*^^)v 振り返れば、東日本大震災があった 3 月 11 日にはすでに 4 月のカンボジア訪問の準備をしており、計画の中止をすべきかを悩んだ時期もありましたが、皆様の温かい励ましのお言葉とご支援でこうして無事に 1 年間の活動を締めくることができました。

ここに改めて、感謝申し上げるとともに、理事一同、新たな 1 年をより実りあるものにしていきたいと意気込んでおります。

今年度もどうぞご理解とご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。

## 活動報告のまとめ

### 1. 公衆衛生・医療環境整備事業

a. スラム街にて、大阪薬科大学 5 回生ボランティア 5 名による公衆衛生環境改善プロジェクトを実施。学生自身による計画および立案、実施を支援。結果、スラム街に水確保のための設備の設置とゴミ拾い、子供たちに水遊びをしてもらうなどの活動を実施しました。

b. 「薬草プロジェクト」が発足しました！ カンボジア保健省、国立薬草センター（正式名称は National Center of Traditional Medicine）と話をすることができ、来年度から共同で薬草研究活動を実施することになりました！

### 2. 教育支援事業

a. カンボジア国際大学薬学部での講義をおこないました。

### 3. 国際協力事業

#### a. 国際協力活動【健康診断活動】

健康診断活動は、Veang Preasrae 保健センターにて 4 月、6 月、7 月、11 月、2~3 月の計 5 回実施し、うち 6 月と 11 月の 2 回は雨森医師同行の健康診断活動、他 3 回は七海が中心の健康チェックと OTC 配布の活動となりました。

#### b. 国際協力活動【支援医薬品輸送プロジェクト】

9 月~10 月にかけて、宮城県薬剤師会からの震災支援医薬品余剰分を引き受けることになり、仙台へ訪問し仕分けや配布先の整理などの作業を行いました。また、カンボジアへの輸送費用として、大幸薬品、参天製薬、健栄製薬の 3 社から輸送にかかる費用への支援をいただきました。

宮城県薬剤師会からの支援医薬品については、シアヌーク病院の倉庫に納入し、カンボジア薬剤師会とシアヌーク病院の両方に分配しました。

2 月には急遽福島県薬剤師会から同様の依頼を受け、輸送にかかる手配や現地での受け取りや通関の手配などの作業を行いました。医療用医薬品だったため、すべてシアヌーク病院への寄付としました。

今回の医薬品輸送プロジェクトで宮城県薬剤師会から引き受けたのは一般用医薬品が中心の総額 1 億 4 0 0 0 万円分相当の医薬品、2 月~3 月にかけては、福島県薬剤師会から引き受けた医療用医薬品が中心の総額 9 0 万円分相当の医療用医薬品でした。

現在もシアヌーク病院、カンボジア薬剤師会と連絡をとりつつ、日本の医薬品を滴背に使用してもらうため、「用法用量の翻訳」「注意事項の伝達」「使用対象や疾患のアドバイス」を継続的に実施しています。



届いたコンテナに「感動！」の七海です。  
シアヌーク病院倉庫前にて。

**医薬品を国を経て流通させる  
ことの大変さを身をもって  
経験させていただきまし  
た・・・(´\_´)**



来たぞ～40ft コンテナ！この荷物の量・・・  
これだけが、あの宮城県薬剤師会会館の中に  
あったとおもうと凄い量です。仕分けを手伝  
ってくださった宮城県薬剤師会の先生方、薬  
剤師ボランティアの中島理恵さん。ありがと  
うございました。



40ft のコンテナが来ても、フォークリフト  
なんて使いません！

素晴らしい「人海戦術」。  
地方から出てきた若い人たちはとにかく  
力があって、重いものもヒョイヒョイ～♪  
荷物が多くても、笑いながら荷降ろしを  
してくれました。一緒にやっても、楽  
しい人たちがばかりでした。まあ、「まだ箱  
あるよ～」ってな感じで笑っていたみたい  
ですけど。



納入が終わった翌日、倉庫を訪問。整理中の  
倉庫番 Eang 氏と「これから」の相談中。

## 東日本大震災余剰医薬品輸送プロジェクト！

8 月に宮城県薬剤師会の生田会長より、「宮城県薬に震災の支援医薬品として届  
けられた医薬品が残っている。対策本部を閉めるにあたり、医薬品をどうにかしなく  
てはいけいないのでカンボジアにもっていったらどうか」というお話をいただきました。

以前から、当 NGO が行っている健康診断活動で医薬品が不足していることや、シ  
アヌーク病院が大震災の影響で日本からこれまで受け取っていた約 300 万円あまり  
の寄付金が受け取れなくなったということが頭にあったので、このお話を受けさせて  
いただくことにしました。

輸送のことなど何も知らない無知な私たち。当初は 20ft コンテナ 1 本で 20 万程度と  
踏んでいたのですが、甘かった!! 残っていた医薬品にはアルコールを含む消毒薬が  
山ほどあったのです！さらに、虫よけのスプレーまで。これらは危険品に当たり、輸  
送コストがべらぼうに上がるんです！さらに、カンボジアに行くコンテナは積み込んで  
くるものが無く、空で帰るので往復運賃分が必要で、結果、見込みの 20 万円よりも倍  
以上で、さらにコンテナを分ける必要があったので 3 倍以上に膨れ上がりました。

次は MSDS (化学物質安全性データシート)。この存在を全く知らなかった私達。  
でも、郵船ロジスティクスの大竹さんに手取り足取り教えていただき、どうにか揃える  
ことができました。MSDS が出せないという企業もあり、対応もバラバラ。で、書類が  
そろったら、新たに事件が勃発しました。当初予定していた輸送会社 DXX 社に「通関  
手続きにすべての医薬品に MSDS が必要」といわれ、「そんなの無理です！」って答  
えると、「今回の医薬品は寄付であって、当社では商業貨物以外は取り扱わない」と  
断られてしまいました。コンテナもブッキングしてもらった後だったのに、完全なドタ  
キャン状態でした。で、結局、郵船さんは危険品で手がいっぱい、日本通運さんに泣  
きつき、無理やり費用も下げてもらって、どうにか対処できました。

さらに、液体類やビン類が多く、物流量が膨大で、結局、通常品で 40ft コンテナと  
20ft コンテナ、危険品で 20ft コンテナが 2 つになってしまいました。危険品の 20ft コ  
ンテナ 2 つはアルコール類とスプレー缶で、スプレー缶が一番手間取りました。最後  
の最後まで輸送するかどうかを検討していたのですが、期限が 24 年の 1 月までと切  
迫していて、廃棄するのに 50 万以上かかるということで、結局 50 万円かけて輸送す  
ることになりました。どうせするのなら、使ってもらう方がいい。宮城県薬剤師会から  
も、輸送費に多額の支援をいただきました。本来であれば、宮城県の薬剤師のためにま  
だまだ支援が必要だったのに、私たちの NGO だけでは、総額 200 万円もの費用を  
工面できず、申し訳なく思いました。その代わり、「頂いた医薬品を無事にカンボジ  
アまで届け、適正にこの医薬品を活用してもらえるようにしなくては」と、そればかり  
考えていました。

現地に輸送する前に、カンボジア薬剤師会とシアヌーク病院の薬剤師さんと綿密に  
メールのやり取りをして、医薬品成分の確認を行いました。その際も、宮城県で実際  
に医薬品の現物を見られなかったため、成分を web で検索して行ったのですが、今  
回は配置薬業からの支援が多かったのも、なかなか検索ができず大変でした。そ  
の英訳を薬剤師ボランティアの佐藤奈都子さんが、タイトなスケジュールにもかかわ  
らず、ややこしい生薬の訳までやってくれました！ありがとう！！

## カンボジアでの通関手続き奮闘！

カンボジアで物流を経験した人ならだれでもぶち当たるという Camcontrol という  
通関手続きに私も思いつきぶち当たりました。

通関手続き業者が「INVOICE value が 0 では、政府がいくら寄付を日本からもら  
ったのか分からないから、日本での正式な流通価格を掲載してほしい」といわれ、カン  
ボジアから日本にネットで応援を要請。広島県の豊見先生が手伝ってくださって、どう  
にかこうにか金額を算出しました。ところが、その翌々日、「この金額の 10% を  
Camcontrol に支払う必要がある」というじゃないですか！金額って、総額 1 億 4000  
万ですよ！その 10%!? 冗談じゃない。「そっちが書けっていうから、金額書いたの  
に、それに上乗せってそれって詐欺でしょ！」って怒っちゃいました。いやいや、で、い  
ろんな証明書をあ～だこ～だと書かされ、どうにかクリア。難儀です、Camcontrol。

## スラム街での公衆衛生活動

2011年11月末から12月にかけて、大阪薬科大学の5回生がボランティアで参加してくれました。彼らは薬剤師の卵♪健康診断活動での手伝いももちろんしてもらいましたが、大きな活動はスラム街での公衆衛生活動でした。

薬剤師として社会に出る前に、公衆衛生の重要性を体験してほしいです。日本にいと当たり前、「きれいな水」「きれいな街」「きれいな公園」。でも、それは一歩日本を出ると当たり前でない国が沢山あるんです。日本も戦後はそうでした。でも、多くの薬剤師が保健衛生、公衆衛生の分野で活躍していたからこそ、いま日本は当たり前のように生野菜を洗って切っただけの「生サラダ」が食べられるし、当たり前のようにお風呂に入れるし、当たり前のように朝顔を洗えるんです。

初日、皆にはスラム街の実情や私が見てきた状況を話をして、「今一番、彼らに必要なものが何かを考えて、滞在期間でできることをやってみよう！」と提案しました。結果、彼らが出した答えは「水の確保」と「清掃」でした。

ゴミ拾いというのは本当に重要なんです。でも、人から言われてするのはなく、自分たちで現場に行き、「ああ、ゴミを拾わないとだめだ。やろう」って思うまでの過程が重要で、彼らにはその過程を辿ってほしいです。

結局、3日間の活動でゴミ袋20袋以上にもなるゴミ拾いと、水をためるための貯水設備を作り、子供たちの体を洗ってあげて、彼らの活動は終わりました。

嬉しいことに、彼らが貯水設備を作る時に「七海 Family」の文字を刻んでくれました。いい思い出です。私たちも継続してスラム街を見に行きますね。ありがとう。

## カンボジア健康診断活動報告

さて、まだ報告していなかった健康診断活動、12月と今年の2、3月です。

昨年12月は医師の雨森先生と薬剤師の七海に、さらに看護師の澤口さんが参加してくださり、初めての「医師・薬剤師・看護師」の3職種が出揃った活動となりました。看護師の澤口さんは初参加にもかかわらず、テキパキとなれない機器で血圧測定、体温測定、血糖測定などを行ってくれました。おかげで、薬剤師の私こと七海も、調剤に専念でき、細かい子供の調剤も無事にこなすことができました！

さらにその澤口さんを待っていたかのように、突然、足と手に大やけどを負った子供が入ってきました。雨森先生の診断はⅡ度深部熱傷。澤口さんの眼がキラ！「看護師の血が騒いだ」と後でご本人が話しておられましたが、そこからは医師—看護師・薬剤師の連携が素早かった！澤口さんはボランティアの薬学生に身体測定を任せて、すぐに患者の傷の手当てのための場所と水を確保。医師の雨森先生が傷をチェックし、手当の程度を澤口さんに伝えます。薬剤師の私はすぐに消毒薬と脱脂綿、包帯を準備。薬もゲンタシンクリームがあったのですぐに澤口さんのところへ持っていきます。澤口さんは言葉が全く通じないにも関わらず、笑顔で泣きわめく子供に笑いかけながら傷口を洗い、薬を塗り、包帯を巻きます。

この様子を学生が撮影してくれていたのだからよく見てみると、ヒビテンで傷口を洗われているときは泣き叫んでいた子供も、澤口さんが薬を塗り始めるとピタッと泣きやんでいるんですね。やはり、「手当て」の力は万国共通で通じるものなのかもしれません。その子も、「傷を治してもらっている」ということが分かったのでしょう。とても記憶に残る出来事でした。

2～3月にかけての訪問は薬剤師の七海のみで実施したので、糖尿の患者さんの継続的な薬のお渡しと、身体測定、OTC の配布を行いました。この時は、当方で薬をお渡しする前に糖尿病薬を飲んでいながら血糖コントロールができていなかった患者さんが日本から持っていったメトホルミンだけで血糖が下がっていました。糖尿の患者さんはこれまでで10名。そのうち6名にお薬をお渡ししていて、そのうち5名がコントロール良好になりました！Bravo!

健康診断活動の報告は web で後ほど公開し、カンボジア薬剤師会へも英訳してお渡ししています。また、FAPA アジア薬剤師学術大会でも発表予定です。



子供たちともすっきり仲良し。



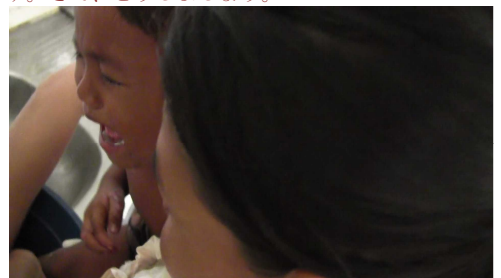
貯水タンクの横には「七海 Family」の文字が。ありがとう、皆。



かまど(?)に右手右足を突っ込んでしまったよう。



3人で手元にある薬と医療材料で処置を考えます。さて、どうしましょう。



消毒は痛かったようです・・・



でも薬を塗って包帯を巻くとピタ。安心した様子です。手当の力は大きい！

## カンボジア局方作成プロジェクト「薬草プロジェクト」発足！

さて、以前東京外大のボランティアの蟹江さんに翻訳してもらった薬草図鑑。それをもとに、昨年12月に、保健省の中にある National Center of Traditional Medicine (通称 NCTM) に訪問する機会ができました。NCTM には以前から日本財団が作成した CaTMO というカンボジア伝統薬を扱う NGO がすでに発足しており、私たちが関われることは何か、全く分からないままに訪問したのですが、当 NGO の活動の基本にある「医薬関連制度の整備支援」という立場を考え、「局方制定の支援」を提案したところ、「実は局方制定をしたかったのだが、方法が分からなかった」という先方の意向とマッチング。当 NGO で局方制定のための調査と研究の支援を行うことになりました。

年越しをして、CaTMO の高田氏より連絡をいただき、また日本財団さんからご連絡をいただき、2月にカンボジアの現地で初顔合わせ。当方の活動理念や現在考えている局方制定に向けての方策について概略の説明をさせていただきました。

そして、日本財団さんと CaTMO さんから正式に共同活動のご提案をいただき、総会での承認を経て、24年度より「薬草プロジェクト」を立ち上げることになりました。それに伴い、JHPA 薬草プロジェクトチームを発足させ、チームリーダーとして、京都大学大学院 薬物資源学准教授の伊藤美千穂先生をお迎えすることが決まりました！また、チームには薬剤師、佐藤奈都子さんも加わり、若くて強い(!?)関西薬剤師女性チームが出来上がりました。今年の活動が楽しみです！



National Center of Traditional Medicine です。

## 24年度の活動予定

### 《現地活動》

#### 1) カンボジア事務所設立

カンボジアのプノンペンに事務所の設立を行います。今後、現地での NGO 登録を行う予定です。

#### 2) 保健センターでの健康診断、診察、及び医薬品の供給

現在は Veang Preasrae の保健センターのみで実施していますが、宮城県薬剤師会からの支援医薬品があるので、これを機にもう1、2か所の保健センターに増やしていく予定です。

#### 3) カンボジア国際大学薬学部への教育プログラム策定

当 NGO がオフィシャルサポーターを務める薬学部。昨年度はこれといった活動はできなかったのですが、今年は現地事務所設立で滞在期間も延びますので、さらに連携を深め、今年は NGO 認定の薬学教育プログラムを策定予定です。

#### 4) 薬草プロジェクト

カンボジアの薬草に関する局方制定のための調査、研究をカンボジア保健省 National Center of Traditional Medicine と NGO CaTMO (Cambodia Traditional Medicine Organization) と共同で実施します。現地フィールドワークは6月と11月の2回を予定しています。

#### 5) 支援医薬品の適正使用支援

昨年度に宮城と福島からカンボジアへ送った医薬品が適正に使用してもらえるよう、期限の管理、用法用量の英訳と説明、注意事項の伝達などを継続して実施していきます。

## 入会及び会費(寄付)のお願い

このニュースレターを読んでいただいでお分かりのように、私達の NGO には収益を得る事業がありません。この活動は現在全て、活動参加者のボランティアによって実施されています。しかし、渡航費、医薬品の購入代を参加者による自費だけでは継続的に活動を行って行くことは非常に困難です。

この活動にご賛同いただける方は是非、ご入会をお願いいたします。

個人会員①年会費：1万円/年

法人会員②年会費：10万円/年

また、通常の寄付金は 10万円をお願いいたします。

用途指定の寄付金や物品での寄付も受け付けています。

必要な物品については、下記の通りです。

用途指定の場合は上記の活動内容を指定してください。

1. 調剤用備品：秤、薬包紙、簡易分包機、乳鉢、乳棒、軟膏壺、薬匙、等、電気を使わなくても調剤が可能な物品
2. 医療材料：血糖測定器と測定チップ、尿試験紙、血圧計、心拍計、体温計、絆創膏等
3. 医療用医薬品：急性疾患用の抗生物質、抗ヒスタミン剤、整腸剤、メトホルミン、アムロジピン、グリペンクラミド



全ての荷物をコンテナから下ろし終わった瞬間です。お疲れ様～

### 振り込み先

ゆうちょ銀行 【店番】458 【普通口座】1933645

【名義】特定非営利活動法人

Japan Healthcare Promotion Association

トクヒ ジャパンヘルスケアプロモーションアソシエーション

郵便局振替口座 00930-5-282252 (青い振替用紙です)

特定非営利活動法人 JHPA

JHPA ニュースレター Vol. 1 No. 2

2011年6月発行

〒631-0803 奈良市山陵町1026-11

特定非営利活動法人

Japan Healthcare Promotion Association 事務局

Web サイト <http://www.japan-hpa.org/>

公式ブログ <http://blog.japan-hpa.org/>

[nanaumi@japan-hpa.org](mailto:nanaumi@japan-hpa.org)